

第61期 ～期首によせて～



風薫る五月を迎えました。三年余に亘るコロナ禍もようやく5類へと移行し、その経済を含めた対策は、いよいよ本格的な脱コロナへと舵を切り始めました。

然しながらロシアのウクライナ侵攻に対する中国やグローバルサウスの動向等、今なお複雑さを増す世界情勢の様々な不安定要因や、それに伴うエネルギー費を始めとする諸々に渡るインフレ、並びに半導体などに代表される物資の不足など、我々を取り巻く経済環境はその背景により一層のグローバル化の進展もあり、益々その厳しさを増しています。

種々の艱難辛苦を乗り越え、私たちが何とか変革を成し遂げて行けるのか、はたまた時代の畝りに呑み込まれてしまうのか…まさにこれからは生き残りを賭けた、時間との戦いとなるでしょう。

我々はその子孫の繁栄ためにも、それぞれの立場で、成すべき事をやらねばなりません。この国の未来の隆盛を考えた時、自分たちに出来ることは何か―それを熱処理という生業を通して、少しでも考えて行ければと思います。

最後に第61期『経営社長方針』を付随し、本稿の結びとさせていただきます。

第61期 『経営社長方針』

『第三次中期経営計画』の始動年に当たる今期、数値による経営目標管理に各々のマネジメントを付加するという新たな視点を織り込み、そのブラッシュアップを加速させ、売上予算および重点施策の達成を、より成熟したプロセスへと全社を挙げて進化させよう。

そしてそのベースとなる労働環境と5Sの改善を全員で推し進め、安全衛生と品質第一を徹底し、経営改革と経営目標の達成に邁進しよう。

島崎熱処理株式会社
代表取締役社長
嶋崎利行

第3次 中期経営計画

第3次 中期経営計画

安全と健康は全てに優先する！

Shimanetsuは品質第一！ 5S3定推進！ リスク排除で安定操業！



■ 経営目標 「浸炭・高周波事業の取扱拡大、新規取引G'10の推進」

1. Shimanetsu 「目指す姿」

1960年創業、金属熱処理事業一筋でお客様から信頼される企業活動に専念、当社の理念である「安全・品質・納期・コスト」をベースとした「S.Q.D.C」活動を展開し、企業価値の向上に邁進する。お取引様へ安心と喜びを提供する価値創造企業を目指す。

2. Shimanetsu 中期経営計画「2025 経営目標値」

- * 売上高
- * 営業利益率

4億円以上
5.0%以上

3. Shimanetsu 戦略「Make a Move（一歩踏み出そう）」

- * 最適生産管理システムの構築によるデジタル化の推進
- * 技術力、生産力、営業力、管理力の組織総合力で、需要変動の対応力強化
- * 適正利益の確保と強靱な財務体質を構築
- * S.Q.D.Cの推進による企業価値の向上
- * 熱処理業界で圧倒的企業を目指す



先月、全従業員参加で予算審議会が開催され、新しい『中期経営計画』が発表されました。第2次の中期経営計画はまるまるコロナ禍とかぶっていたため、なかなか計画通りにはなりませんでしたが、第3次は計画を達成できるように全社一丸となって頑張りましょう。

第61期 製造課 重点施策

| 項目 | '23年度「上期」 | '23年度「下期」 |
|----------------------------|------------------|-----------|
| 1 5S3定【0災運動】 (担当者 1名/月) | 製造部署員全員8名参加 | |
| 2 メンテナンス計画 | 製造会議で調整・生産会議で報告 | |
| 3 ヒヤリハットの運用 (適時) | 2回/月で報告会 | |
| 4 設備保全活動 (品証タイアップ) | 1回/月の「製造・品証」合同巡視 | |
| 5 個人技能向上【MET】推進 | 教育計画に沿って活動 | |
| 6 防火活動の推進 | 項目に沿って活動 | |

第61期の製造課の重点施策は上記の6項目となりました。

これを受けて、製造課の各々が個人目標を設定して日々活動していきます。

私、佐藤の目標は「5S3定」・「個人技能向上」(教育する側)と重点施策には載っていませんが毎月の売上目標達成の3項目を重点的に活動していきたいと考えています。

編集後記

先月に引き続き、今月も佐藤が担当させていただきました。

ゴールデンウィークは、1日だけワンボックスをレンタルして三浦半島の最南端三崎港に行ってきました。本来ならば、美味しい海鮮丼を食べて城ヶ崎を観光して帰る予定でしたが、首都高速から渋滞に巻き込まれ下道に下りてもほぼほぼ渋滞で9時に習志野を出発して車を停めたのは2時ぐらいでした。先に降りて歩いてお店に並んでくれた妻と合流して海鮮丼を食べ、ちょっとお土産屋さんを見学して帰ってきました。レンタカー代もあるので非常に高級な海鮮丼を食べるだけのお出掛けとなりました。(佐藤)